NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞と高校生、マツシロ

2．学校名

私立長野俊英高等学校(長野県)

3．実践者名（代表者名）

土屋　光男

4．学年

第1、2、3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

特別活動　郷土研究班21人　学校設定科目　地域史32人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞と高校生、マツシロの取り組みなどについて

7．目標（狙い）

新聞を身近なものに感じられるようにする。
積極的に新聞投稿することにより掲載を実現し、意見の表明を行う。

8．評価の視点

実際に投稿できたか。また意見が掲載されたか。
そのことにより実際に新聞が身近に感じられたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

通年で投稿を積極的に行い、かつ掲載されたものは互いに学び合う。そして再びチャレンジする。
(班は放課後など、地域史は2単位の授業の場で)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

新聞は朝日、毎日、読売、日経、信毎など　　ただどうしても信毎中心になった。
(＊信毎…信濃毎日新聞)
展開と留意点・過去の生徒の掲載記事を紹介し自分にもできるという自信をつける
・実際に投稿させる。
・掲載されたものを紹介し学び合う。
・さらにチャレンジさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

最初は投稿は恐れ多いことだと敬遠していたが、用紙など用意して取り組ませた。実際に自分の文が載ると跳び上がって喜び、他の生徒はそれに続けと頑張った。

12．成果と課題

雲の上の存在であった新聞が、案外身近なものだととらえられるようになり、生徒によっては5回ほどチャレンジし、複数回掲載された。ただ投稿しない生徒もいた。(無理強いはせず)